

ASELE No. 33

Tuesday, January 09, 2024

The Aomori Society of English Language Education Newsletter

青森県英語教育学会通信第 33 号 令和 6 年 1 月 9 日

青森県英語教育学会研究大会開催

青森県における英語教育の普及と発展のため、青森県英語教育学会では下記の通り、研究大会を開催いたします。会員のみならずもちろん、県内の英語教育に関心を持っている方なら誰でも参加いただけます。また、対面とオンラインのハイブリッド開催ですので、ご自宅からでも参加することが可能となっております。たくさんのお参加をお待ちしております。

また、研究発表の発表者を募集いたします。日ごろの研究について、参加者で共有し議論を深めてみませんか。発表を希望される方は、令和 6 年 2 月 2 日（金）までに事務局あて（telesaomori@gmail.com）にメールでご連絡ください。

日時

3 月 9 日（土）13：40～16：45

会場

弘前大学 総合教育棟 305 講義室（予定）

会費

会場に参加 会員、非会員の学生・院生：無料

非会員の社会人：¥500 を会場で現金払い

Zoom で参加（会員・非会員 関係なく）：無料

プログラム

(1) 13:00 総会

(2) 13:30~13:35 開会、会長の挨拶

(3) 研究発表

① 13:35~14:05（30分、10分休憩）

② 14:15~14:45（30分、10分休憩）

(4) 14:55~15:25 ミニ講演（30分、5分休憩）

Brian Birdsell（弘前大学）「ChatGPT を活用した教材作成」

(5) 15:30~16:30 講演（1時間）

(6) 16:30 謝辞と閉会の挨拶

(7) アンケート記入

参加申し込み

対面・オンライン場合も右の QR コードから申し込みフォームにアクセスしてお申し込みください。



来年度の東北英語教育学会研究大会は山形で

来年度の年次研究大会は山形支部が担当支部となっております。シンポジウムテーマや等については、これから随時公表されることとなりますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

青森支部は校種指定の研究発表の発表者と司会者を担当します。山形支部から具体的な日程等について連絡が来ましたら改めてメールでお知らせいたします。発表の希望等ございましたら、事務局あて（telesomori@gmail.com）にメールでご連絡ください。

東北英語教育学会 第 42 回山形研究大会

【期 日】 2024年（令和6年）6月30日（日）

【会 場】 山形大学小白川キャンパス（山形市小白川町一丁目 4-12）

【日 程】

6月29日（土）

14:00～17:00 理事会

6月30日（日）

9:00～ 受付

9:30～9:45 開会式

9:50～11:30 研究発表

*発表 30分（発表 20分、質疑応答 10分）×3、発表間の休憩 5分×2、計 100分間

11:30～12:40 昼食・休憩

12:40～13:00 総会

13:10～15:20 シンポジウム

*講師紹介等 10分、発表 60分（20分×3名）、休憩 10分、質疑応答 50分

15:20～15:30 閉会式

なお、大会情報につきましては、以下の全国英語教育学会ウェブサイトでもご確認いただけます。

<https://sites.google.com/site/tohokueigo/>

令和6年度全国英語教育学会 第49回福岡研究大会

来年度の全国英語教育学会研究大会は九州地区英語教育学会の主管により対面で開催予定です。全国会員の方には、来年5月上旬に大会要項が大会事務局から送付される予定です。

【日 程】 2024年（令和6年）8月24日（土）・25日（日）

【会 場】 福岡工業大学（アクセス <https://www.fit.ac.jp/shisetsu/campus/>）

〒811-0295 福岡県福岡市東区和白東 3-30-1

なお、大会情報の詳細については全国英語教育学会のページに今後公開される予定です。

<http://www.jasele.jp/>

東北英語教育学会研究紀要第44号論文募集

— 投稿希望者は1月15日（月）までに県支部編集事務局に連絡を —

東北英語教育学会では、研究紀要第44号（令和6年3月発行予定）掲載論文を募集しております。掲載論文は各県3編までで、未発表の研究論文及び実践報告が対象となります。論文投稿にあたっては、必ず、東北英語教育学会のホームページ <https://sites.google.com/site/tohokueigo/> に掲載の投稿規定等をご確認ください。投稿希望がございましたら、令和6年1月15日（月）までに、研究主題及び概要（和文400字程度）を添えて、下記県支部編集事務局（telesaomori@gmail.com）までご連絡ください。投稿希望者には投稿必要書類等を送付いたします。編集準備作業の都合上、投稿申込み締め切り以降の受付は応じかねますのでご注意ください。原稿締め切りは令和6年1月31日（水）で、原稿提出先は同じく県支部編集事務局となります。原稿につきましても、締め切りを過ぎたものは受理しかねますので、提出にあたっては、くれぐれも締め切りを厳守いただくようお願いいたします。なお、投稿論文の採否については、東北英語教育学会研究紀要投稿規定に従い、県支部査読委員による査読審査の上、決定させていただくことをあらかじめ御了承下さい。

【研究紀要青森支部編集事務局】 弘前大学教育学部 佐藤剛研究室 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 弘前大学教育学部 TEL : 0172-39-3448 E-mail : telesaomori@gmail.com

来年度の東北英語教育学会の改選役員について

— 会長、副会長、事務局の改選 —

先般、紙上開催の形で行われた理事会において、来年度の東北英語教育学会の役員が改選が行われました。その結果、会長は久保田佳克先生（継続）、副会長に丹藤永也（新規）、事務局にエイドリアン・リース先生（継続）となりましたことをご報告いたします。

小学校英語教育学会（JES）会員募集

小学校英語教育学会（JES）は小学校における英語教育の理論と実践を研究し、毎年夏に開催される全国大会をはじめ、地区ごとのセミナーなどの活動を行っている学会です。

丹藤永也が県の理事と授業改善支援委員会の委員長、佐藤剛がその委員を務めております。小学校で教科としての英語の指導が始まった今、会員になって一緒に勉強しませんか？詳しくは学会ウェブサイト（<https://www.e-jes.org/>）をご覧ください。有益な情報がたくさん掲載されていますのでぜひ一度ご覧ください。

会員登録の確認と学会費納入のお願い

令和6年1月末日までに下記振込先まで学会年会費をお振り込みいただきますようお願い申し上げます。
東北会員は4,000円、全国会員は6,000円となっております。現時点での会員登録状況を確認したい場合は下記連絡先、事務局佐藤までご相談ください。また、6月24日（土）25日（日）に開催された理事会・総会で審議の結果、来年度以降の会費について以下のように変更されることになりました。

一般会員の会費を年1,000円増額、4,000円

大学生・大学院生については3,000円のまま現状維持

これを受けて、青森支部としては実質的な増額はせず、以下のように内訳を変えることで対応いたします。

これまで 東北2,000円、青森2,000円

今年度 東北3,000円、青森1,000円（学生会員は3,000円の納入）

なお勤務先、現住所、メールアドレスを変更された場合は速やかに事務局までご連絡ください。

青森県英語教育学会通信（ASELE Newsletter）第33号

2024年1月9日発行

発行者 青森県英語教育学会（ASELE）

代表者 丹藤永也

発行所 〒036-8560 弘前市文京町1 弘前大学教育学部英語教育講座 佐藤剛研究室

青森県英語教育学会（東北英語教育学会青森支部）事務局ニューズレター担当

電話&FAX：0172-39-3448 E-mail：telesamori@gmail.com

学会費振込先 青森銀行富田支店 普通預金 口座番号 1009612 名義 青森県英語教育学会 事務局 佐藤剛

Look at this picture. 視覚補助の提示方法の Tips

—細部にこそ神は宿る—

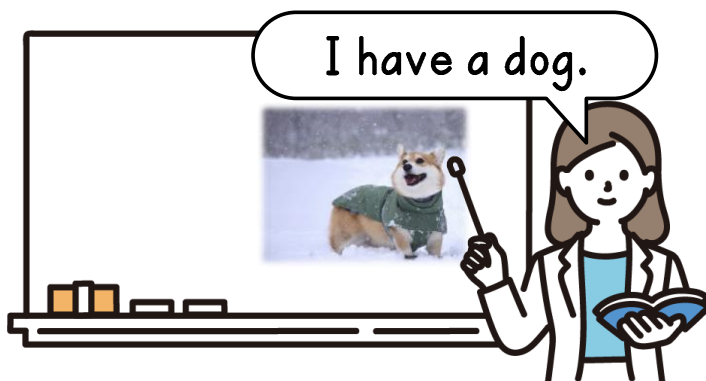
ニュースレターでは、授業で使えるちょっとしたテクニックをご紹介します。今回は英語の定着につながる視覚補助の提示方法についての Tips です。

数ある語彙習得のカギとなる要因の中のひとつに「深い認知処理」があります。何かを覚えるときにただ情報を与えられるのではなく、「うん？何だろう？」と考えた方が記憶に残りやすいこと、簡単に言うと「簡単に覚えたことは、簡単に忘れる⇔苦労して覚えたことは、なかなか忘れない」ということになります。僕が尊敬する英語教師のひとりである北原延晃先生は、ものごとが身につく順番として

- ① 自分で考えて答えを見つけたもの（うれしくて忘れない）
- ② 自分は見つけられなかったけど、クラスメイトの誰かに先に答えを見つけれられたもの（悔しくて忘れない）
- ③ 先生に答えを教えられたもの（何のありがたみもないのですぐ忘れる）

といつもおっしゃっていて僕は今もそのまま授業で伝えています。確かに誰かに答えを教えてもらえるのはストレスフリーで楽なのですが、すぐに忘れてしまう経験されたことがある方も多いのではないかと思います。この「深い認知処理」を授業でどれだけ意図的に起こさせているかが、児童・生徒の英語の習得において重要なのですが、そのチャンスは日々のちょっとした場面に隠れています。今日は、視覚補助を提示するときの Tips 中の Tips を紹介します。

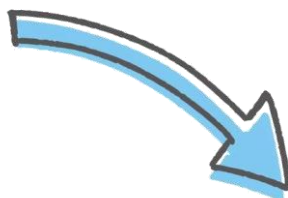
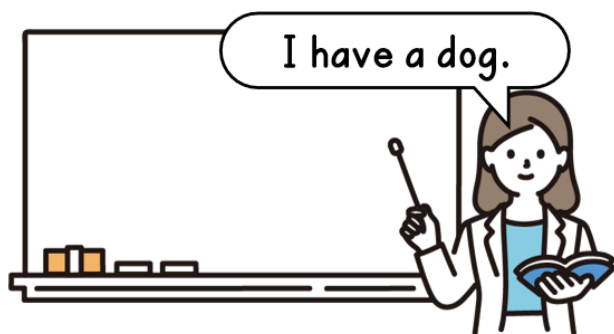
オーラルイントロダクションやスピーチなどのモデル提示、または近年であればデジタル教科書など、視覚補助を提示しながら授業をする場面は英語の授業では非常に多いものです。その時に以下のような形で提示していませんか？



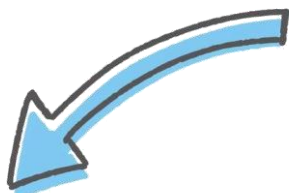
このように、視覚補助と音声を同時に提示してしまうと、学習者は聞き取った音声の意味をそれほど深く処理することなく活動が流れてしまいます。中には dog という音声を聞いてではなく、提示された写真を見て「犬って言ってるんだな」と理解した気になっている学習者がいる恐れもあります。そこで、こんな時には以下のようにしてみてはいかがでしょうか？

パターン1

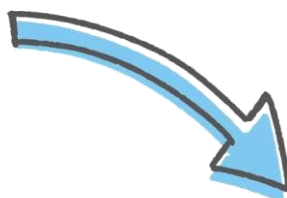
- ① 音声「I have a dog.」を聞かせる



- ② 児童・生徒の反応を見て



- ③ 視覚補助を提示する



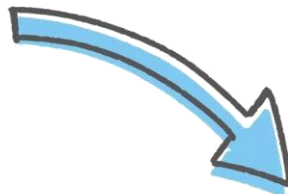
- ④ 「あ〜〜そういうことか!」と児童・生徒がなった段階で再度音声「I have a dog.」を聞かせる



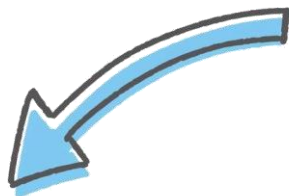
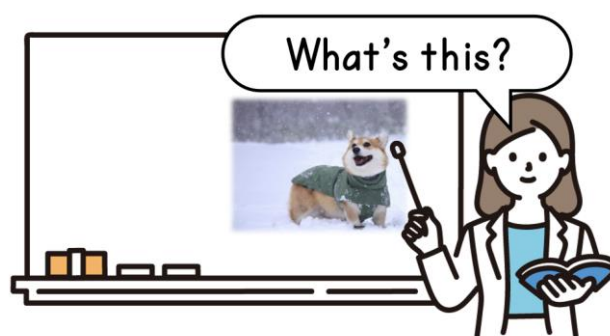
「深い認知処理」を引き起こす視覚補助を別の提示方法としては以下のようなパターンもあります。僕はおっぱらこっちを使って授業をしています。

パターン2

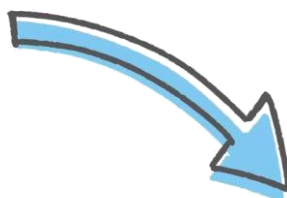
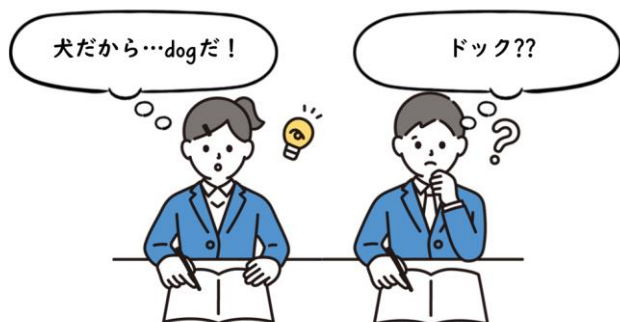
- ① 音声「I have this animal.」といって、視覚補助を提示



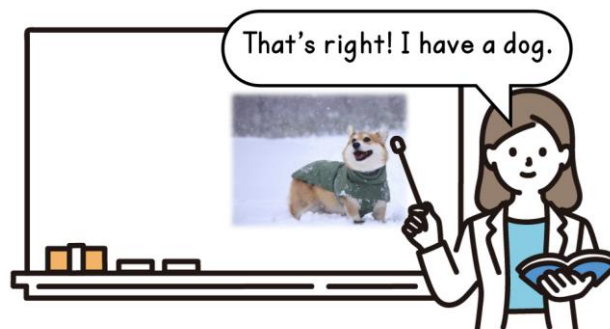
- ② 「What's this?」または「What can you see?」と児童・生徒に問いかける



- ③ ドッグ? dog?という児童・生徒の反応を待つ



- ④ 「That's right! I have a dog.」と音声をかせる



非常に細かい Tips ではありますが、このようなことに気を付けて毎回授業をした場合（小学校であれば年間 35 時間・70 時間，中学校であれば 140 時間）の積み重ねが英語の英語力に大きな違いを生みます。

「児童・生徒がなかなか単語を覚えられない」または、「こちらのお話をなかなか集中して聞いてくれない」という悩みの解決方法はこういうところにあたりします。

近年書店やセミナーでよく見かける「〇〇メソッド」「〇〇学習法」のような、大きな授業の流れを考えることはもちろん重要です。でも、「細部にこそ神は宿る」こういう Tips の積み重ねが授業において同じくらい重要であることを忘れていけないのではないのでしょうか。みなさんは授業でどんな Tips を使っていますか？ぜひシェアしていただければと思います。